

## 令和元年度 第2回 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】 令和元年9月11日（水）

午後7時00分～午後8時15分

【会場】 吉田町学習ホール

### 1 出席者

- ・ 発言者 牧之原市及び吉田町において様々な分野で活躍中の方  
4名（男性2名、女性2名）
- ・ 傍聴者 180人

### 2 発言意見

番号	分野・所属	項目	頁
発言者1	農業	お茶農家の新しいビジネスモデル	3
2	製造業 ダイバーシティ	ダイバーシティを意識した企業経営と 中小企業の採用難	5
3	地域活動 芸術	ダンスを通じた子ども達の国際交流	10
4	地域振興	お寺を中心とした地域の交流人口の拡大	12
傍聴者1	—	耕作放棄地解消に向けた茶業振興の要望	17
2	—	リニア建設に伴う大井川の水問題	18

【川勝知事】 皆さんこんばんは。今日は、知事広聴をこちらで開催することになりましたところ、皆さんにお越しいただきまして誠に恐縮でございます。従来、広聴会というのは、これは64回やってるんですけども、昼間にやっていたんです。これ、広聴会、大変実り多いものだと思いますので、ただ、平日のお昼にやるとサラリーマンの人達が来れないので。仕事されてるので。ですから、夕刻にしたらどうかという、そういう御提言がございまして、今回が初めて、これをここでするっていうことになりました。皆さんお疲れですから、集まらないんじゃないかっていったらもう100人以上の方達がですね、お越しいただきまして、誠に恐縮でございます。

今、実は移動知事室の真っ最中でございまして、移動知事室というのは、総合庁舎が藤枝にございまして、その局長室が知事室になっております。今日明日と、こちらで知事の仕事をすること、過去何回かやってるわけでございます。今日は、この吉田町と牧之原市の町民市民の代表のお二人ずつにお越しいただいて、私ども話を聞くと。だけども聞きっぱなしってのはよくありませんので、もし何か要請があったり、あるいは県への疑問点があったりすればですね、私が答えられる部分はすぐお答えをいたします。でも、もし答えられない場合、また持ち帰らなくちゃいけない場合にですね、担当者が聞いてなくちゃいけませんけど、今日はですね、各幹部がこちらに来ておりまして、意志決定者が来て、ですから、即決即断っていう形でできるようにして参りました。

今日、この牧之原と吉田を朝からまわっておりまして、牧之原の方は、憩いの家みちのところに参りまして、大変素晴らしいなと思いました。今年、田沼意次候生誕300年ですが、享保4年の7月24日に生まれたと。これは西暦に直しますと、1719年9月11日です。今日はそうです、9月11日。今日で300歳です、もし生きておられれば。それから牧之原台地開拓150年ということですね。また空港も民営化されまして、三菱地所と東急さんが合同でやっつけいらっしやいまして、どんどん発展しておりまして、結構なことだと思っております。

それから吉田町の方はですね、今日は町長さん自ら御案内いただきまして、吉田公園、それから漁港との間に、この防潮堤といいますか、シーガーデンと呼ばれてますけども、それが10メートルの高さですーっとできてましてですね。ですから、これは本当にシーガーデン、牧之原と島田のあたりは、空港、Tea、お茶のガーデンシティっていうふうに言っておりますけれども、こちらはTをSに変えまして、海がありますから、シーガーデンシティ構想ということで、まさにそういうシーガーデンが今、明確に作られて

いるというところを見ましてですね、まことに綺麗な景観で、富士など、あるいはチューリップの頃にですね、雪をかぶった富士山を見れば、最高の景色だろうと。ここに日本の迎賓館を作ったら発展していくところであります。それならば、空港の前にですね。

どうせリニアができますと、今の新幹線のダイヤが変わります。のぞみは全部リニアの方にまわりますから、ひかりとこだまになって、停車駅は一つ増やして良いというふうに報告書に書かれてるので、固有名称はありませんけれども、空港駅なんですね。そうすると、空港に新幹線の駅があると、それから東名、新東名から国道1号線とあってですね、御前崎から金谷まで、もう間もなく、全線高規格の道路が開通しますから。それから御前崎の港もあるということですね、全部あるので、こちらをですね、言ってみれば山の洲と言いますか、中部地方全体の、太平洋側のまた玄関になるなというふうに思っております、場合によっては県庁をですね、こっち持ってきても良いなというくらい。それは静岡市がちゃんと自立をして、目指されてるように特別自治市ができれば、県庁はそこにいることができませんので、こちらに参りまして、広域的な仕事でここを玄関口にすると、迎賓館もいるなと思ったりしているところでございます。

ただですね、空港の水は全部大井川でございます。もちろん、牧之原のお茶畑の水、これも大井川の水です。水道水も、伏流水を活用している様々な企業も、みなこの大井川の水ですから。これはなかなか譲ることができませんので、このところは、水が戻せなければ、そういう技術ができるまでは、水がめに傷をつけてはならないということでやっております。そういう大きな脈略の中で、今日は、こういう、市民町民の代表の方達のお話をしっかり承ってですね、時間があれば皆さん方からも御意見を承りまして、牧之原また吉田町のためになるという、そういう時間にしたいというふうに切に願っているところであります。夕刻の時間、誠にお出かけていただいたことが無駄にならないようにしたいと思っておりますので、何卒よろしく最後までお願いを申し上げます。ありがとうございます。

【発言者1】 では皆様こんばんは。御紹介いただきました、カネジュウ農園株式会社代表の発言者1と申します。このような場で発言の機会をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

最初に当園の活動について御紹介させていただきます。私は、新潟の燕三条出身で、今から14年前に、牧之原市の製茶農園の長女と結婚し、その時就農し、現在、代表を

引き継いでいます。当時と今とでは、茶業情勢が大きく変わり、取引原料の生産を軸に経営をする同業者の割合が、年々増えてきている状況でございます。そして今から5年前に、一番茶価格の下落に危機感を感じまして、一番茶の価値を広げるべく、お茶農園ブランドを作ろうと、一生懸命小売販売をして参りました。現在は、全国の百貨店やライフスタイルショップに常設し、昨年7月に東京表参道に直営の小さな店舗をオープンし、お茶の美味しさをPRする活動を行っています。皆様、お手元の資料、こちらの資料でございますが、当園のブランディングについて掲載されておりますので、よろしければ後ほど、御覧になってくださいませ。

では次に、県への提言について発言させていただきます。静岡空港への新駅の設置を、引き続き続けていただきたいです。理由としては、アクセスの改善です。5年間、全国各地で試飲販売を行い、出会ったたくさんの方に、「静岡茶美味しいね」というお言葉をいただきました。しかし、それと同じくらい、「牧之原へ行って茶摘みしたい」とか、「新茶の茶園風景をじかに見てみたい」という言葉をいただき、お茶は、体験によって価値が上がり、もっと注目してもらえないかなと考えるようになりました。また実際に、御来園いただける方には、必ず、どうやって行ったら良いか、車を持っていらっしゃる方は途中で諦められたり、という経験が多々ございます。

少し話が変わりますが、日本茶離れとかお茶離れとか言われますが、なぜかと自分なりに考えますと、今スーパーマーケットやネットなどで売られているお茶の商品を調べますと、ものすごい数のお茶の種類がございますし、緑茶って体に良いと言われますけれども、他にも魅力的な、緑茶以外のお茶がたくさんございます。例えば、最近流行の、おくら青汁なる商品がございまして、ビタミンの成分が豊富に入っていて、これ一杯で野菜45グラム摂取できますよとうたっている、非常にわかりやすい商品が世に溢れている状況でございます。しかし、日本茶は、伝統文化であり、奥行きが深いものです。ワインも同様で、一本800円のデイリーワインから、数百万円のロマネコンティのようなワインもあるように、生産する背景や歴史によって価値が変わります。世界中にワイナリーツアーがあるように、茶畑を見たり、お茶作りを体験したいという方も、たくさんいるはずなんです。

もう一つ、お茶の国静岡として最大の魅力は、生産量日本一ではないと私は思います。皆さん、五大銘茶ってどこか御存知でしょうか。京都は宇治茶、滋賀は朝宮茶、埼玉は狭山茶、そして、川根茶、本山茶と。そうです、私達は二つも銘茶があるんです。ライ

バルの鹿児島県は一つもございません。静岡は、産地、品種、お茶の種類、山や台地といった景観すべてにおいて、多様性に富んでいます。お茶の観光農園体験に最適な県なんだと思います。

まとめますと、カネジュウ農園のコンセプトは、「牧之原の茶農園で、芳醇なひとときを」です。プレイヤーである私達茶農園が、お茶の体験や感動を売る新しいビジネスモデルを再構築する努力をして、そして、空港駅から最適なアクセスで、全国、全世界のたくさんの方にお越しいただき、お茶のファンになっていただきたいです。偏った提言ではございますが、ぜひ県や市民の皆さんと、お茶を絶やさないために、御一緒に考えていただければ幸いです。以上となります。ありがとうございます。

【発言者2】 こんにちは。大川原製作所の発言者2と申します。当社は吉田町の東名高速道路のすぐそばに本社を構えておりまして、今年で創業92年を迎える乾燥装置メーカーです。静岡県の茶葉の乾燥から始まりまして、今では食品や化学品、医薬品だけでなく、し尿処理や下水処理等の様々な分野で当社の装置を使っています。一口に乾燥と言ってもわかりにくいと思いますが、私達の身の回りには、当社の乾燥を経てできた製品が山ほどございます。例えば、料理には欠かせない調味料や粉末スープやお菓子、パソコンやスマホに使われている電池の材料、オムツや入浴剤などの日用品や化粧品素材、薬の錠剤や顆粒等、挙げれば本当にきりがありません。このような商品を作る過程で使われる一方で、工場の廃液や廃水、食品残渣など、私達から排出されるし尿の処理行程等にも当社の乾燥技術が使われておりまして、価値の無いものを、肥料やエネルギーなどの価値のあるものへ変化をさせています。あまり馴染みのない乾燥装置ですが、生活に密着した存在であることがおわかりいただけたかと思います。

乾燥技術装置を生業としているため、いわゆる男社会として見られがちですが、現在、ダイバーシティ経営に積極的に取り組んでいます。ダイバーシティとは、多様性を意味しており、国籍や性別や年齢等関係なく、それぞれの能力を最大限に発揮できる環境を作ることです。産業装置の製造業では大変珍しく、当社では多くの女性技術者が活躍しています。また、外国人活躍という言葉は、差別的な印象があつてあまり好きではありませんが、国籍問わず様々な方が活躍しています。例えば、中国子会社では、中国の社員が総経理を務めていますし、海外市場開拓の第一線で活躍しているのは、海外の方々です。

ダイバーシティを実践するのは、そう簡単なことではありません。多様な価値観を理解しつつも、会社の価値観や理念や信念を共通認識してもらい、ベクトルを合わせる事がとても重要だと理解しています。そのために、当社の考えを理解してもらうことと同時に、ボトムアップで、社員発生型で新たに、コミュニケーション促進施策や、ワークライフバランスに伴う各種制度や人事評価制度の改革等を行っています。これら全てではありませんが、当社は、「OKWoMen」という、組織に横串を刺したようなダイバーシティチームが、各種イベントや施策の立案と実行を行っています。変わる、変える、ということに比較的否定的な県民性であるかな、と思っておりますが、社内にもそういった雰囲気は多少あるものの、進める中で、変わってきたのではないかなというふうに感じています。上からの意見で大変恐縮ですが、現在では経営層は、「やってみて駄目ならやり直せば良い」というような意識に変わってくれたかなと感じています。

ここまでで、色々なことに取り組んでいて素晴らしいなというふうに思われるかもしれませんが、今でも本当に道半ばでもあり、異論も出ます。少しでも社員個々の活躍の幅を広げて、それぞれの「やりにくい」の「にくい」を除いて、活躍して欲しいと考えています。引き続き、社員のため、ひいてはお客様のために、経営をしていかなければならないというふうに思っているところでございます。

ここで一つ、提案させていただきたいなと思っております。ダイバーシティを進めている当社ですが、昨今、採用難で、なかなか新卒採用が難しい状況です。当社が産業界の黒子のような事業をしているので、知名度がないということが原因かもしれませんが、例えば現在の高校生や大学生へ、企業の経営者層などから、企業人講話のようなもの、榛原高校が行っているということを目にしましたけれども、こんなような取組を行って、比較的若いうちから、当社のような吉田町や牧之原の中小企業に接触を持つことで、地元で素晴らしい企業ってあるんだなということを実感していただき、地元への関心を高め、優秀な人材の流出を防ぐということの一助にもなると思っておりますので、そのような取組が、県で行われたら嬉しいなというふうに考えております。以上で終えさせていただきます。

【川勝知事】 どうも発言者1さん、発言者2さんありがとうございました。御両人も30代だったですね。だから、こういう若い方がですね、まず農業ですと、後継者に困る、しかも高齢化してるっていう。とんでもない。こんなカッコいい青年、しかも燕

三条、新潟のですね。あそこはお茶ができない。照葉樹林ですから、お茶は椿と一緒に、肉厚の葉っぱですね。ああいうものができる場所は、日本のどの辺までですかね。東北は全然できないですよ。その燕三条で綺麗な景色の中で培われた方が、こちらのお茶で育った綺麗なお嬢さんを見初めてですね、そして今日、お茶のことをいっぱいやってるって言っていただきまして、誠に感激でございます。1888年創業、明治20年ですから。120年以上の歴史をきちっとやられて、5代目ということでございますが、いわば、将軍で言えば綱吉の頃で、元禄の文化が盛んな頃ですね。

可能性について言っていただきました。新駅を作りなさいと。はい、作ります。しかしこれは、リニアができた時に、そこでサービスが開始できるようにすれば良いですね。ですから、リニアと連動してるんですよ。ただ、リニアは別に、新幹線が南アルプスをかすめなくても、遠回りしても、同じように、リニアのサービスが開始すれば、ダイヤが変わりますから、できるということになりますね。そこですね、お茶の体験してもらおうということで、まわりの他の狭山茶とか宇治茶とかあるいはその鹿児島とかと違うところは何かと言いますと、これ世界農業遺産ということ。わさびと、それからお茶畑がですね、これ世界農業遺産ですから。つまり世界クラスなんです。ですから景色が良いでしょう。南アルプスが見える、富士山が見える、駿河湾が見えると。これみんな世界クラスですから、こんな綺麗なところはありません。

茶畑だって、デートコースになるんですね。うちのお茶が、やぶきた茶がですね、韓国に渡りました。これがいわゆる済州島のお茶ですね。あそこはお茶畑がデートコースになってるじゃありませんか。それから防霜ファンが、いわばそこで愛をささやくそういう街灯のような、銀座の街灯のような感じのですね、そういう役割を果たしてるんです。一度見に行ってください。

ですから、お茶の可能性は茶畑も含めて、ものすごくあるということですね。ですからあそこで、うちのお茶も、それからふじのくに茶の都ミュージアムが新装開店してますね、たくさんの人に来ていただいております。金谷中学跡というのも、これとまた連動をいたします。それから、茶業研究センターは長い歴史を持っておりますけれども、老朽化しました。しかしレベルが非常に高いので、これはもう最新式の、見た目にも綺麗なものにしてあります。ですから、お茶全体でですね、この牧之原一帯が、いわば本当に茶どころの中の茶どころ、茶の都であるというように作っていかうということにしております。しかしともかく、水がないといけませんのでですね、皆さん声を上げて、リ

ニアは賛成です、だけど、南アルプスは、ユネスコエコパークですから、守らないといけませんので、両立をさせるように、遠回りする以外ないですね。そう思っていますけどね。

それから発言者2さんですね。素晴らしいですね。本当にもうカッコ良い、女性経営者ですね。そしてダイバーシティって言うてくださっている。まず、男女共同参画は言うまでもありませんよね。この発言者2さんところは、乾燥機ってことですね、ものづくりということで、ダイバーシティと。要するに、国籍や性別や宗教を一切差別しないで、誰もがここで働きたくなるようにしようという大変高い立派な志で、国連のSDGsのですね、もう、こういうものを会社の経営の中に活かされてるというふうに思いました。

これをどういうふうにして知らしめるかちょっと考えるってことで。私は今の時代はですね、青年達はやっぱり、例えば発言者1さんだって、故郷離れられて、結果的にここに来られたわけですね。ですから、外に出るっていうのはですね、青年期の時に一度は親元から離れたいっていうのがあるんじゃないですか。だけど、30くらいになるとどうでしょうか。結婚したくなって、パートナー見つかったと。パートナーには御両親いらっしゃる、自分にも両親がいる。自分の両親のことを考えます。どうするんだろうかと。どうしようかと。両方に紹介しなくちゃいけませんから。初めて両親のことを考える。終の住処をどこにするかっていうことを考える。昔の、一回勤めたところはずーっと一生勤めなきゃならないという時代ではなくなりました。幸か不幸か。しかしですね、そういう時代ではなくなったので、トラバユってのはあり得ると、十分。その時にですね、選べるような環境をですね、皆さんに知らせておけば良い。だから「30歳になったら静岡県！」という標語。それと「ふじのくにパスポート」、高校3年生の卒業生すべてにですね、カードを配りまして、カードのQRコードを見れば、常に最新の情報がずーっと伝わるようにすると。静岡県の青年達が、県外に出て大学に行く、その大学20数校にですね、この4年ほどの間で20校以上、静岡県の情報を提供すると。向こうは向こうで静岡県の青年が欲しいから、協定を結ぶということをやっているわけですが、こちらはともかく一次産業から三次産業まで全部整っておりますし、景色は良いし交通の便は良いし東京にも関西にも近いし、そして何しろ食材が良いですよ。そういうことですからね、ここは選ばれる条件を持っています。しかし、どこを選ぶかはもちろん青年に自由に任した方が良くと思うんですが、情報を出すことが大事ですね。



その一つとして、発言者2さんは高校や大学で講義をしてくれと、講話をさせる時間を持つと。それが良いと思います。高校、あるいは中学2年生ぐらい以上にですね、学校の先生だけに教育を任せるんじゃなくて、学校の先生は学校の先生で、中学以上になると、自分は社会の担当、理科の担当、あるいは音楽の担当というふうに分かれるでしょ。ただそれ以外のことは知らない。だからこの乾燥機械、あるいは見ただけで何かしたくなるというような、そういうものを見せる。そして自分がそれで行きたいというなら、来てごらんと。ただですね、トラバーユって言うとおかしいですけども、2、3年で辞めるということもあるから、30代の前半ぐらいまではですね、いろんなことを青年達が、なんていいますか、経験して失敗をして挫折をしても許すと。35歳以上になったら自己責任ですから。それ以前はですね、人生100年の時代ですから、失敗を許すと、挑戦してごらんと、なんでも自分でやりたいということをやってごらんと。一人前になるのはなかなか難しいことですので、そういういろんな道を知らせるには、実際にそれで生きてる方達が、子ども達にじかに会うのが一番良いんですよ。だから学校を地域に開放することが、大事だと思っています。

そういう意味でですね、私はぜひですね、それは教育委員会にこちらが何か言うのは、政治が教育の現場に言うといろいろと軋轢が生じますので、軋轢が生じないように県の方はやっております。社会人の皆様方の代表にですね、地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会というのに入っていていただいて、そこで揉んでいただき、2時間ぐらいあるんですよ、それを私じ一つと聞いておってですね。それでまとまったことを私が聞いて、そして教育委員会に持っていくと。教育委員会に持っていく権利をもらいました。総合教育会議という、法律で、教育委員会に首長が出て良いということなんで、その時に私は、偏見の固まりみたいな者なので。自分が一番よく知ってますから。ですから、その偏見が生じないように、その実践委員会でまとまったことを、委員長の先生に言っていただくと。そういうふうにしてですね、例えば学校の放課後のスポーツ、なかなか自分の好きなスポーツができない。だったら地域のスポーツクラブを作りたいとおっしゃったので、それが今、磐田の方を中心にして始まっています。そうしたことも一つですけども、そうしたことをですね、私、実践委員会の方にかけて、こういう御提言が社会人の方から出てる、どうですかと。高校や中学、中学3年生だと受験のことがあるかもしれませんが、しかるべき学年の少年少女にですね、地域のことを知らせることが大事だと思って、御提言には賛成ですね。ただ私は、これはすぐに

教育の現場に持っていけというふうに言える立場にはないということも、合わせて申し上げておきたいと思いました。どうもありがとうございました。

【発言者3】 皆様こんばんは。ダンススタジオ Cheese!!の発言者3と申します。ダンススタジオ Cheese!!は夫婦で経営をしております。私の父が経営しています会社の2階にスタジオを構えています。発足は2010年、今から9年前のことでした。今は3歳から40代まで、約110名の会員さんがおります。20クラス近いレッスンがありますが、それを主に私と主人で指導を行っております。発足当時はですね、吉田町内のイベントのみ出演させていただいていましたが、お手元の資料にございます、写真がいっぱい載っておりますけれども、だんだんディズニーランドや東京ファッションコレクションなど、大きなステージにも出演させていただくようになりました。そして今年、日本代表チームとして、アメリカの「ワールドオブダンス チャンピオンシップ」の出場を果たすことができました。ここまで来れたのは簡単な道のりではありませんでしたが、とにかく、吉田町の大きなサポートがあったというのが確かです。その道のりをちょっとお話させていただきます。

私は吉田中学校に通っていたんですけど、その時から頭の中に外国に行きたいというのがすごくありまして、一番最初にアメリカに行ったのが、吉田町の姉妹都市視察プログラムで、ロサンゼルスにサンタマリアというところに視察に行き、桜の樹を植樹する、そういった姉妹都市交流を行いました。ものすごく文化交流というものに感動しまして、自分は英語があまり喋れませんでしたので、またいつかこういう機会を子ども達にさせてあげたいなっていう思いがありまして、将来の夢の一つとして捉えて、静岡県立大学に入学しました。そして、英語は何とか喋れるようになりまして、それから、自分の趣味として、ジャズダンス部に所属して、部長を務めました。そして、舞台公演制作などに携わりまして、ちょっとエンターテイメントの方もやってみたいなというふうに考えていました。で、外国に住んでそうやっていきたいなと思ってはいたんですけども、22歳の時に、ちょっと運命を変える大きな出来事がありました。それがまた、吉田町の海外研修プログラムがきっかけだったんですけども、吉田の中学生をオーストラリアに引率させていただくチャンスがありまして、ホームステイを中学生が経験したんですけど、その経験を経て、外国に行く前と行った後で中学生の様子がもうものすごく変わったんですね。すごく静かだった子が積極的になったり、喋れなかった子が声が大きくなった

りとか、そういう成長が10日間ぐらいですごく見えて、私の考えがそこで覆されまして、私が行くのではなくて、この吉田の子ども達を世界に連れて行きたいなという思いが芽生えてきました。その時に一緒に引率したのは今の主人だったんですけども、この人と吉田にいて、そういうまちづくりをやっていききたいなというふうに思いました。

それからですね、結婚してから、子どもが3歳と1歳になったときに、吉田町の役場さんの方から、チャレンジ教室でダンスを教えてくださいませんかというお話をいただきまして、一年間、チャレンジ教室でダンスを教えました。そしたらやっぱり子ども達の様子が、静かだった子が積極的になったり、性格が明るくなったり、自信をつけていったりってような変化がありまして、これを続けていききたいなということで、2010年、ダンススタジオ Cheese!!を発足することになりました。そして、いつかこのダンスを通して世界へ子ども達を連れて行きたいという思いで、指導する日々を始めました。

それからですね、吉田町のイベント、小山城祭りや花火大会等、多くのところに出演させていただきました。やっぱりダンスを披露すると、お客さんもその分たくさん来てくれるので、地域活性化に繋がってきたのかなというふうに思っております。また、吉田町が、健康づくりとしてダンスを推進している素晴らしい町であるので、私達の発表の場が増えて、地域の皆さんと一緒に成長させていただくことができたと思っています。そして、ダンスで国際交流っていうのをずっと意識していますが、これを最初に叶えたのが2013年で、ニューヨークのダンスカンパニーが静岡市民文化会館で公演を行ったんですけども、その前座に出させていただいたことがありました。本場ニューヨークのレッスンを我々のスタジオでやっていただき、ニューヨークのダンスをやってくれる機会があったんですけど、やっぱり子ども達の、もう目が輝いているのがわかって、そういうものをとにかく続けていききたいなと、熱く思ったのを覚えております。

そして今年ですね、ついに世界大会に挑戦することになりまして、かなりハイレベルな日本予選に勝ち抜き、アメリカ行きの切符を手に入れました。出発までは、子ども達とダンスの特訓だけではなく、英会話のレッスン、文化研修等も行いました。そして、アメリカでは、今まで感じたことの無い緊張感の中、子ども達もやりきり、観客の盛り上がりもすごくてですね、各国の熱いエナジーを浴びて帰ってきました。そしてもう、やっぱり行く前と行った後で子ども達の様子ががらりと変わらして、パワーアップして、もっと他の国にも行きたい、他の国でも踊ってみたいというふうに、すごく、子どもの変化を見ることができました。これは、吉田町にいなければ叶わなかったことだと思っ

ています。

こういった子ども達の変化をこれからも応援したいと思っております。今後、私が提案したいのは、吉田や静岡をPRできるパフォーマンスを世界に発信、SNSやインターネットが普及している時代ですので、動画発信をしたりすることで、またPRに繋がるとはならないかというふうに、そういった文化おこしもあるのではないかなと思っております。また、世界のいろんな国のダンサーと、実際に交流できて活動できる場があればというふうに考えております。とにかく、この地域の子供達が世界に誇れる人に育てたいという思いを大切に、これからも、ダンススタジオ Cheese!!、活動していきたいと思っております。ありがとうございました。

【発言者4】 改めまして、こんばんは。牧之原市片浜、釣徳寺住職、発言者4と申します。私、丸3年前ぐらい前に結婚したんですけれども、その頃、何もまだしてませんでした。誰も来なくなってしまったお寺を、一生懸命一人で掃除して、葬式を手伝ってくれないかという電話が鳴るのをひたすら待ってたんですね。要は受身だったんです。そして、お寺に嫁いできたばかりの奥様は外に勤めに出ておりました。お寺の本堂には埃が溜まっていき人は誰も来ない。それでも掃除しなきゃいけない。ずっと祭壇の上は同じまま。この状況を打開すべく、何とかして自分の努力で、家族を養っていける、家族を養っていただくだけではなくて、地域を良くしていく。なぜ地域を良くしていかなければならないかと言いますと、自分自身が一つの臓器だとしたら、市や県は一つの体や一つの命だと思っております。そして胃だけが良くて体が悪かったら良くないものですから、まわりの部分も良くしていく、そして、臓器と言うものは血管や神経で繋がっているものですから、地域だったり繋がりを持っている方が良いということで、まちづくり、地域の拠点づくりとしての活動をいたしております。

活動内容でございます。地域マルシェと法要の、文化交流行事を伴った、毎月一日無料の御祈祷でございます。御祈祷料は無料でございます。お賽銭は入れ放題。そして、字を書いて印を押すだけでした御朱印を、いろんな方のアドバイスをもとにイラスト入りに変えまして、それで地域伝統行事を発信、また、いろいろな1年のイベントというものを発信するよういたしました。そういえば、もうすぐ敬老の日ですよ。そして、片浜まちづくり実行委員会に入れていただきました。牧之原市片浜というところは小学校が閉校してしまっていて、それをきっかけに、またまちづくりを頑張っていこうとい

う、こういうようなことで活動してるわけでございます。

活動の目的でございます。世界の形が変わっていく中で、古き良きでなければならぬ。そして今まで通りのことを今まで通りやるためには、何か新しいことと同時にやっていかなければいけない。そのためにまず一つ、お檀家様以外に広く釣徳寺を参拝していただくことが必要不可欠だと考えました。そして今、多くのところで問題になっております、「どこそこを直すから一軒のお家でいくら寄付してくださいね」というハガキがいきなり届くこと。こうすると、寺院とお檀家さんの仲が悪くなってしまいますので、そういった資金を、外貨を獲得する、市の外、お檀家さんではない方、県ではない方、日本国ではない方からいただいたもの、いただいた御浄財を寄付金の代わりとして、お寺の営繕修繕に充てるということを考えました。おかげさまで、私はお檀家様と、大変仲良しでございます。活動開始にあたりまして、牧之原市主催の遊休不動産活用講座にて学ばさせていただきました。ちょっと心に残ることを言おうかなと思ってマイクを握らせていただいたら、市長が後ろで聞いていらっしやいまして、非常に緊張した覚えがあります。

5年間の目標を立てまして、現在2年目でございます。そして、例えば御朱印に限って申し上げますと、私どもは御朱印めぐりをすることはございませんので、日に何度も通ってくださっている皆様に信頼して、意見を頂戴する。そして、それを私とかみさんで、総合的に判断してそれを実行に移す。おかげさまで、テレビに映っているような御朱印に関するトラブルは今のところ起こっておりません。深く感謝申し上げます。これも、一種のダイバーシティなのかもしれません。そして、毎月の片浜まちづくり実行委員会プロジェクトリーダー会議を釣徳寺でお願いしております。お寺という広い場所に1日でも多く誰かがいるということ、これが、御本尊さまもお喜びでございます。お寺さんだから、お坊さんだから、寺院であるからということにあぐらをかかず、一事業体として経営の努力をする、これが住職という仏様の教えを説くという側面とは別の、代表役員という役目でございます。

現在やっていることは、シンガーソングライターということをやっておりますので、説法とアコースティックライブ付きの講演活動ということをいつでもやることができます。あと料理が得意ですので、それを活かしたお料理教室をやることもできます。カフェもやりたいですね、できれば。そして、知恵の拠点、そして地元の拠点として、あそこのお寺に行けば何かあるぞということで、何の用事もないけれどもお寺に遊びに行

ってみようという、そういうお寺に、そして、今までの、お寺といえば敷居が高いんだというお寺のPRの大失敗を払拭し、もっと寺には足を運んで良いんだということを強くアピールしていきたいと考えております。もちろんお休みの日もございます。寝てる時もあります。

行政への要望でございます。先ほど、皆さんプレイヤーという言葉をお使いになりましたけれども、私もイノベーションのプレイヤーの一員と考えておまして、その背中を押していただきたいと思っております。定住人口を増やすということはなかなか難しいですが、風光明媚なこの地に交流人口を呼び込むことは十分可能でございます。そして、土砂災害と津波から守っていただいて、何か河川に問題があったら、すぐにとんできていただきたいですし、海岸に問題があったらすぐ何とかしていただきたいと思っております。こちらに関しましても、ぜひお願いしたいと思っております。

私達は、地域と家族の繁栄のために努力をいたします。風光明媚なこの地域にあらゆるイノベーションを起こし、外貨を獲得し、市外や県外から得た収益を市県民税として納税できる環境になるよう希望いたします。また、イノベーションの考えの活動拠点が同時に防災の拠点となるよう、自分の努力で承認工事を行い、避難場所への設備投資、助成金や補助金をいただけるように希望いたします。江戸城や駿府城、田沼城は、現在の姿はいかがでしょうか。田沼意次侯生誕300年、そういった歴史的な場所は今後、発展の礎となります。これが地域発展の旗印となる支援をいただけるよう強く希望いたします。お話を閉じさせていただきます。牧之原市から元気と笑顔を。ありがとうございました。

**【川勝知事】** どうも。発言者3さん、また発言者4さん、ありがとうございました。

発言者3さんの話は言うことないですね。本当に御立派だと。中学のときに、吉田町の、こういう姉妹都市であるロサンゼルスの方に行かれて、そこで、中学校後もこういうふうに関係と結びつきたいと思われた。中学、これすごく大事だと思いますね。そして22歳の時に、今度はやっぱり吉田町と関わりになり、子ども達を連れて行って、その中学生の子ども達が変わるのを、かつて自分がそうであったように、目の当たりにしたと。ということで、そして自分の得意なダンスを、御主人様と御一緒にやって、ついに世界大会までもっていったと。そしてこれをさらについていうことですね、中学校の時に行って事は中学のときにパスポートを持ってないといけませんよね。ですから私

は高校生は全員パスポート持った方が良いというふうにして教育委員会の方どうかと、こう提言してるんですけども、吉田町はですね、中学生でもいけるようにしてるということですね、非常に開明的ではないでしょうか。やっぱり太平洋に面してますからね。でっかくないですか。富士山も見えてるでしょ。カリフォルニアは日本ぐらゐの大きさなんですけれども、静岡のことを日本のカリフォルニアってこう言われますけれども、向こうのカリフォルニアよりよほどこちらの方が良いと思いますが。吉田町はそういうものを凝集して持っているのですよね、こういう小さな少女のハートに大きな火をつけて、それが今花開いている感じですよ。そういう意味で、こういう、第2第3の発言者3さんが出てくるなという予感を強く感じましたね。吉田町政といいますか、これが健全に動いてるというふうに思いました。

それから発言者4さんはですね、3年で一気に、蜘蛛の巣がはってたお寺をですね、シンガーソングライターで、これから料理も手がけてということで、祈祷料が無料ってのも信じられないですね。それなりにちゃんと、相手がもし気持ちがあれば、いくらでも賽銭払ってくださいというだけです。幾らでも払いますよね。ちゃんと事業体として自立するために、ちゃんと頭の良い御住職は将来を見据えられている。大変イノベーターな、革新的な発明心に溢れた御住職がここにいると。ただ、お金もかかる防災、あるいは、津波対策だとか、あるいは砂防対策だとか、これはやらんといかんとおっしゃっていただきまして、それは気がついたところからやりますから、なんか確認することがあるなら、今言っていただくと早いですよ。例えば近くにそういう危ないところがありますか。（「裏の川ですね。」）裏の川とおっしゃった、なんという川ですか。（「寺川。」）寺川だそうです。こんな立派な釣徳寺というお寺に災害があったら、知恵の拠点、地域の拠点、これがですね、どえらいことになるので、しかも防災の拠点にしたいとおっしゃってますから。じゃあ寺川のところは見に行くことにいたしましょう。優先順位があるかと思いますが、ともかく見て、現場を危なければ直すというふうにしたいと思っております。

このお二人、両方とも一種の芸術家じゃないでしょうか。こちらもちろんダンスですから芸術家ですけど、あちらは、私は料理の名人だとおっしゃっている。それから、シンガーソングライターだとおっしゃっている。いろいろやりたい、この二人がコラボするとどうなりますかね。ダンスと、それから音楽と。ですから先ほど発言者2さんもおっしゃってましたけど、一切差別しないと。港っていうところはいろんな人がお越しに

なるので、天候悪い時はそこで避難しなくちゃいけなくて、空港も同じですね、いろんな人がいらっしやる。分け隔てなく皆さんをお迎えし、楽しんでいただくと。風光明媚だし、食材の数は439もあって日本一ですし、そして交通の便は良いし、そういう日本の言ってみればど真ん中のところに位置しているので、東京とか大阪とか京都とは違う、こちらのPRの仕方を考える時が来ているなというふうに思っているわけですが。この二人のコラボは、吉田町と牧之原ですから、市町の境を越えて、こちらの牧之原台地が蘇ればと。

田沼意次の話が出ましたが、田沼意次賞など出してはどうですかね。何しろ彼は、その後、松平定信っていうとてつもない儉約家みたいな人が出て、悪者になっていますけども、実は大石慎三郎っていう東大出た学習院大学の先生がいらっしやまして、その人は「田沼意次の時代」という本を岩波書店で書いてるんですよ。田沼意次がいかに立派な政治家であったか。次に老中になった松平定信という、寛政の改革をした人は非常に窮屈な政策をしました。外国の本も、こういうもの読んだらいけないとか、文武文武と言って蚊みたいでうるさいといった川柳が出てくるくらい嫌がられたんですよ。しかし、田沼意次のイメージは彼が作ったんですね。それをやっぱりひっくり返さないといけない。それはイノベーションです。徳川幕府がこうして生き残れる、その時に邪魔だったのは何か知っていますか。浅間山が噴火したんです。浅間山が噴火し、いろんなものが全部駄目になって、東北で10万人ぐらい餓死するんです。偏西風で向こうにいった灰が落ちますから、米ができなくなって餓死するわけですね。それがずーっとこの浅間山の火山灰がですね、太平洋を越えてアメリカ越えて、フランスまで行って、フランスで米ができなくなるんです。農民が困ってパンよこせ運動してですね、フランス革命になったんですよ。だから浅間山の噴火でフランス革命が起こったんです。これ大石慎三郎先生が言ってることです。それくらいのことで、田沼意次のこの改革がですね、目に見えないようになった。実際はすごいことやったということでございますんで、田沼意次賞出してですね、そういうすごいことやる人をこの牧之原と吉田町から輩出して、こういう発言者3さんみたいな、あるいはこういう若い青年が新潟からやってきたり。立派な歴史を持っている企業でしっかりとやってると。鰻だけではないということがわかりましたね、吉田町は。牧之原はお茶だけじゃないってことがわかったというだけでも大きいんじゃないでしょうか。言うことなし。ただ、寺川のごことはちょっと考えるということで。以上でございます。



【傍聴者1】 知事ありがとうございました。牧之原市議会議長の傍聴者1といいます。今日、知事のお話を伺うということで、友人と話をしました。そうしたらぜひ、お話する機会を持てたら、これだけは言うておいてもらいたいと預かりましたものですから、発言をさせていただきます。

知事のお話は非常にあの、お茶の都ということで、明るい未来の展望が見えるお話なんですけれども、実はこのお茶というのが、非常に厳しい状況でございます。当然認識はされていると思うんですけれども、今後、美しいお茶風景が、耕作放棄地の問題等で失われる可能性があります。ですから、これも全力を尽くして、てこ入れをお願いしたいと。具体的に言いますと、お茶の生産調整、過剰在庫、これを一扫させるような、静岡県とか小さいところではなくて、全国規模でお願いしたい。そういった声を、顔の広い知事に、全国に発信をお願いしたいと、そういったことを言うておいてもらいたいと聞いてきたものですから、全国のね、そういったことで、そういった側面から、ぜひお力をお借りしたいということで、発言をさせていただきます。よろしく申し上げます。

【川勝知事】 わかっております。ただ発言者1さんがですね、新しいライフスタイルに応じた可能性が今見えてきてると。ですから、旧来のやり方では具合が悪いということもあるんですね。一方、どんどんと耕作放棄地がお茶畑で出てます。10年前には、大体1万2000ヘクタールぐらいの耕作放棄地がありました。そのうち6000ヘクタールぐらいが荒れて山になってたり、持ち主がわからなかったり。残り6000ヘクタールのうち3000ヘクタールぐらいで、元に戻したわけです。その同じ3000ヘクタールがまた、お茶畑を中心に耕作放棄地になってると。そういうことでですね、今この危機に瀕しているということはよく知っております。生産調整も含めてどういうふうにしたら良いのかと。我々お茶の憲章作っております。「お茶の文化を守り育てましょう」、「お茶の産業を一層発展させましょう」、それから「お茶の機能を学んで健康になりましょう」、「お茶を通しておもてなしの心を育みましょう」、「お茶を通して平和な社会を築きましょう」と。こういう文化、産業、健康、それからおもてなし、平和というので、県庁本館の踊り場を上がった正面のところに、ふじのくに「茶の都しずおか」憲章っていうのがありまして、これも牧之原の石雲院で書いていただいた。平方精逸先生に書いていただいでですね、みんなそれ心を一にしてやってるんですが、なかなか出口が見えにくい

ところがあります。ですからこの牧之原、日本一の茶畑ですから、ここから提言されることは特に活かしていかなくちゃいけないと。

ちなみに茶の都ミュージアムも、それから今度、先ほど申しました、茶業研究センターも一新いたしまして、新しい時代に即応したお茶づくり、こうしたものを、やっぱり飲んでくださらなきゃいけないので、飲んでくださる市場を広げないことには、生産者を励ますことができないので、市場の動向をよく見ながら、どういうふうになれば、先ほどの1000円のものから100万円するものもある、実は日本のお茶も、こちらではありませんけど、天竜で作ってるものは、一本3万円で売り始めたですね、冷茶。これがミラノの万博の時には20万円になりました。ですから、売り方によっては、そういうこともできるんですね。安く買ってもらうということではなくて、付加価値を付ける方法を考えないといけないということで、ぜひ、知恵を貸していただいて、一緒にやって参りたいと思います。

**【川勝知事】** 今、リニアの新幹線で、牧之原のこれ右岸ですよ、大井川の。1秒間に2トンないし3トンが失われるというふうにおっしゃって、それでもう長野県側と山梨県側から工事を始めるぞっていうようなことで、すごい圧力がかかって。私はですね、もう気が小さいもんですから、今、押しつぶされそうなんですけど。私はリニアよりもですね、水がめは南アルプスですから、これは守らなくちゃいけないと思って必死で、頑張っておりますが、そんなことしなくて良いという人は言ってください。頑張れという人はですね、ぜひ、拍手していただければ。(拍手) じゃあ頑張ります。はい、川勝平太、頑張ります。これはね、牧之原が生きていく、もう150年前にこの台地を開拓した中條景昭先生ほかですね、もう、申し訳ないですよ。絶対にやらなくちゃいけないと、守らなくてはいけないというふうに思っておりますので、皆さんも声を上げてください。ぜひお願いします。

**【傍聴者2】** 今の知事の話をお聴いて、私、20年くらい藤枝で暮らしていたんですが、藤枝市では水道はそのまま飲んではいませんでした。買って来た水を飲んだり、料理に使ったりしていました。吉田町の実家では、水道の水をそのまま飲んでいました。南アルプスの伏流水がどれだけ綺麗かというのは、これは20年前に、吉田小学校の社会科見学で、町内の浄水場に行った際に聞いてきた話で、吉田町の水はほとんど浄化が要らな

い、他のところはたくさんの塩素で消毒して飲んでいるけれども、この町の水は大学の先生に調べてもらって、とても綺麗な水で水道の水をそのまま飲めるという話を聞いたことがありました。それから 20 年経って、まだその水が変わっていないということを知って、自分としては嬉しく感じました。今回、知事の一生懸命な姿を見て、とても感激しています。これからも頑張ってください。

【川勝知事】 素晴らしい御発言いただきまして、本当にありがとうございました。この吉田町と藤枝と両方で生活されたってことですが、藤枝も大井川の水の恩恵で生きているところですね。例えば藤枝の酒蔵のお酒もありますが、あれみんな伏流水です。焼津の地酒、あれみんな伏流水ですね、大井川の。それから焼津にあるビール工場の水も、全部地下から汲み上げているわけですね。ですからもう、400 以上の会社が、この伏流水と言いますか、地下水に、これが水の質が良いので、生活しているわけです。ですから、これはですね、お金の換算できないんですね。それくらい大切なものです。

だけどそれを補償するからって言われたらどうしてやろうかと思ってですね。私の考えをちょっと言いましょうか。それはですね、こっちは 60 万人くらいの方が生活しているわけですよ、大井川の水道によって。これは水道だけで 60 万人です。他にもですね、産業だとか、農業用水だとか、火力発電所、水力発電所とかいろいろありますけれども、大体この 60 万人が作り上げる GDP は、60 万人ですから、静岡県の人口の 6 分の 1 です。静岡県の GDP は 16 兆円です。16 兆の 6 分の 1 は、大体 2.7 ぐらいですか、2.7 兆円です。それが実は水がなければ。今回千葉でもいろいろとありましたけど、もう、水がなければトイレも使えないし何もできないという、そういう状態になるんです。要するに生活できなくなる、産業ができなくなる。年間 2.7 兆円が傷がつくとなったら、これ 20 年間補償するために、その 1 年間で 2.7 兆円だと。10 年間だと、20~30 兆円。20 年間保証するという事になってますから、60 兆円。60 兆円を皆さん、払えないと思いますね、日本の予算の半分以上ですから。それぐらいのことをあなた方は、傷つけようとしているんだというぐらいでですね、数字としてはそういう数字が出てくるかなと思ってるんですが、天文学的な数字になるので。それならもう、他のちょっと回り道しようかってことになるんじゃないかと思ったりするんですけどね。

しかしですね。私はもっと大切なのは、これはお金の代えられないということだというふうに思っております、20 年前の水と同じ、美味しい水だと。私は藤枝の酒蔵に

行きました。そしてその 80 歳超えられました、江戸時代から続く酒蔵のおじいちゃんがですね、蛇口を開かれると、ものすごい水が出てくるもので、飲んでみなさい、知事と。実に甘みのある美味しい水ですね、これが、人々に好んで飲んでいただいているお酒の元になってる水だということを、立ったまま 20 分ぐらいでば一っ私におっしゃいまして、もう命がけで訴えられてるなと思ってですね。今日は、今、藤枝と吉田町両方ですね、生活を経験されて、水の大切さを訴えていただきまして、頑張ってくださいと言われたのでですね、命張って頑張るということでもあります。どうぞよろしくお願います。ありがとうございました。

【川勝知事】（「まとめを。」）ともかくレベルの高い話をですね、4 人の 30 代の方からいただいて、全くそれぞれ個性が違うけれども、郷土を愛する気持ちから、地域の発展に貢献したいという気持ちがですね、御発言に溢れていまして、そしてまた、実際にそういう仕事をされておられてですね、大変頼もしく感じた次第でございます。武士みたいな人を生み出せる地域じゃないでしょうか。例えばここはですね、江戸 250 年間で、そういう精神が息づいているところだなと。そして、その遺臣がこちらに来て、この牧之原の、この台地をお茶畑、日本一のお茶畑にされたと。これをやっぱりベースにしてですね、田沼意次侯生誕 300 年、そして、牧之原台地開拓 150 年、吉田町がシーガーデンをですね、今作ろうとして、ここは日本の中心になれるんじゃないかということも、今日は太平洋見ながら、できるかしらんと。我々も田沼意次大先輩の、そういう志を現在に引き継いで、皆さんのためにになるように、一緒にやりたいなという決意を新たにしたところでございます。今日は遅くまで皆様方、夕食後の団欒のひとつきを割いていただいて、御出席賜りまして、ありがとうございました。